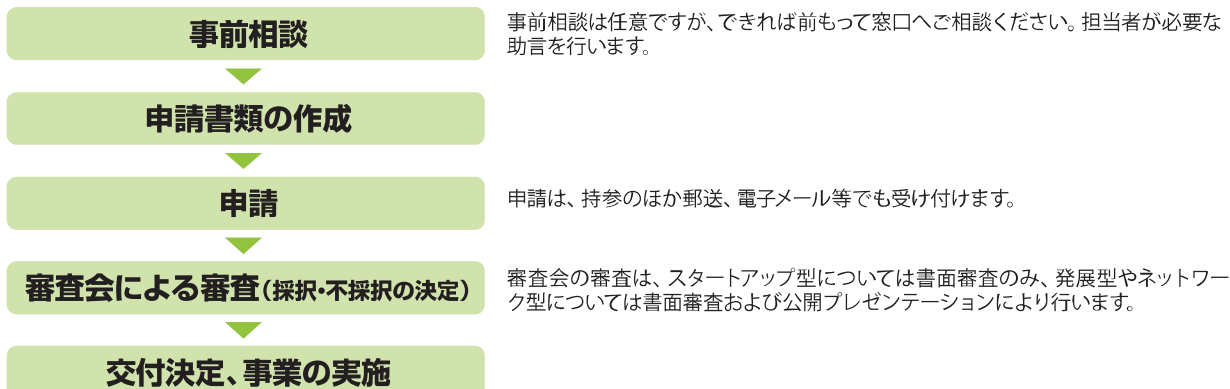


申請の流れ



申請に必要な書類 (2013年度)

- (1) 申請書、事業計画書、収支予算書(様式は、窓口やインターネットで入手可能)
 - (2) 団体規約、構成員名簿等(なければ団体の概要が分かるもの)
 - (3) 過去の取り組みの概要及び課題〔スタートアップ型(継続)申請時に添付〕
 - (4) 事業を継続していくための計画書〔発展型(市町村連携コースを含む)申請時に添付〕
 - (5) 構成団体の事業実施体系・体制〔ネットワーク型(市町村連携コースを含む)申請時に添付〕
 - (6) そのほか、取り組み内容が分かる資料(任意)
- ・提出部数はそれぞれ1部です。

相談窓口、連絡先

区分	担当課	電話番号
全般	県未来づくり推進局鳥取力創造課	☎0857-26-7248
鳥取市／岩美郡／八頭郡	地域振興部東部振興監東部振興課	☎0857-26-7969
倉吉市／東伯郡	中部総合事務所地域振興局中部振興課	☎0858-23-3177
米子市／境港市／西伯郡	西部総合事務所地域振興局西部振興課	☎0859-31-9694
日野郡	日野振興センター地域振興課	☎0859-72-2081
全般	(一財)とっとり県民活動活性化センター	☎0858-24-6460

2013年度の申請及び採択状況

- 2013年度はのべ177件の申請があり、うち137件を採択。
- スタートアップ型(新規)の申請は2012年度(98件)に続き99件と、多くの団体が申請。補助率も高く、新たに何かを始めるための後押しがしやすいことが人気の要因か。
- スタートアップ型(継続)は、申請のあった36件全てが採択。過去にスタートアップ型を受けている事業が対象であり、基本がしっかりしている。
- 発展型は人気が高く、申請29件に対し採択10件と競争率が最も高かった(2.9倍)。ネットワーク型も申請10件に対し採択5件と、競争率は2倍だった。
- 新設された市町村連携コース(発展型、ネットワーク型)の申請は計3件と少なかった。複数の市町村との連携が必須であり、体制づくりに時間を要することが一因と考えられる。

補助金の申請方法について

鳥取県では、鳥取力創造運動支援補助金により、地域づくりに意欲がある団体を支援しています。ここでは補助金制度の概要について触れ、少しでも申請に向けてのイメージを持っていたいただければと思います。



鳥取力創造運動支援補助金 制度一覧 (2013年度)

区分	対象事業	補助上限(補助率)
スタートアップ型(新規)	新規・試行的な事業、従前の取り組みを拡充する事業	10万円(10/10)
スタートアップ型(継続)	前年度以前にスタートアップ型の補助を受けた取り組みに工夫を加えて継続する事業	10万円(3/4)
発展型	発展的な取り組みで、他のモデルとなり地域の活性化に寄与する事業	100万円(3/4)
発展型(市町村連携コース)	発展型の取り組みで、かつ複数の市町村がかかわり、地域住民と連携して成果を生み出す事業	100万円(3/4)
ネットワーク型	複数の活動団体が協力・連携(ネットワーク化)して新たな成果を生み出す事業	200万円(3/4)
ネットワーク型(市町村連携コース)	ネットワーク型の取り組みで、かつ複数の市町村がかかわり、地域住民と連携して成果を生み出す事業	200万円(3/4)

補助金制度を踏まえ、県の担当者に補助金申請の際のポイントや注意点などについて話を聞きました。



〔①県庁担当者〕
県未来づくり推進局鳥取力創造課
喜多川香さん

―採択された事業の印象として感じることはあり

つかって効果的に活動するにはこれが必要」と活動を先に立てたり、「日々の活動の蓄積があつて、それにこのイベントを加えると地域へのメリットが高まる」など、団体・地域と関連づけて組み立てることで、意義や必要性が伝わると思います。

―今後、補助申請を考えている団体へのメッセージや注意点などあれば聞かせください。

〔池原さん〕

団体の皆さんの日常の活動と悪いの中から生まれてくる提案は、本当に尊いものだと思います。初めての申請でも、自信をもって提案してください。もし、分からないことや困っていることがありましたら、募集期間外でもお気軽にご相談ください。応募の締め切りぎりぎりになってからでは十分にやりとりしにくいので、少し余裕をもってご相談いただければありがたいです。

ますか。

〔喜多川さん〕

広く参加者を募るものや、取り組みがより多くの人のためになるものなど、規模の大小を問わず「開かれている」事業が高い評価を受けています。逆に、仲間内だけの趣味や興味の探求にとどまる事業はあまり評価されていません。

また、何か新たなものを生み出そうとする事業や、同じ課題解決のための取り組みであっても、切迫感や使命感だけでなく、大切な何か（目標・地域・仲間）のため「どうにかしたい、できたらすばらしい、きつと楽しい」といった前向きさが感じられる事業が多いです。

―補助申請を考えている団体へのアドバイス・注意点などあれば教えてください。

〔喜多川さん〕

最寄りの申請窓口にご相談いただくか、「申請の手引き」をご一読ください。申請の仕方や採択に向けて何を訴えるべきかをお伝えしたいと思います。また、補助金は県民の皆さまからお預かりした大切な税金です。どんな取り組みなら自分たちの税金を使ってもらいたいかを、一度考えてみるのも重要です。

―相談に来られる団体への対応として、心がけていることはありますか。

〔池原さん〕

スタートアップ型の補助金では、申請団体が内容について直接審査員に訴える機会はありません。団体の皆さんの思いをしっかりと聞き、その提案の背景や前提を書いていた

実際に補助金を受けた団体の皆さんにも、補助金制度について感じたことを聞きました。



〔団体・代表者〕八橋若衆会(琴浦町) 会長 浪花昭彦さん
〔取り組み内容〕諏訪神社一帯の環境美化と夏祭り、流しそうめん祭り、秋祭りによる活性化

―補助金制度をどうやって知りましたか。

〔浪花さん〕

以前、別の団体で活動していたときにこの制度を知りました。八橋若衆会で活動するにも当面の資金がなかったの

―申請する上で困ったことはありましたか。

〔浪花さん〕

初めての申請のときは、表現の仕方が難しく、採択され



〔②窓口担当者〕
県中部総合事務所地域振興局
池原真さん

―申請書類の書き方について助言していることはありますか。

〔池原さん〕

知らない人が読んでも内容が分かってもらえるような目線・体裁でつくると、よりよい申請書になります。また、「自分たちのネットワークを

ませんでした。しかし、窓口の池原さんが丁寧にアドバイスをしてくれて、参考になりました。活動の後にはどう地域につながるのか、説得力のある説明やアピールに気をつけました。その結果、2度目の申請で採択されましたが、この相談がなければダメだったと思います。

―補助金を受けて、取り組みの目的は達成しましたか。

〔浪花さん〕

例年にないにぎわいが生まれ、まちが活気づいたことで取り組みの手応えがありました。流しそうめん祭りも「今年はいつするの？」と、まるで八橋の年間行事になったかのように期待もされています。

まずは、昨年やったことを定着させ、ゆくゆくは町外にも広めたいと思います。補助金は何度も申請できないので、もっと信用と行動力を見せつけて協賛を得る取り組みにしたいと思います。